

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	大平 要	学校名	八丈町立三根小学校
担当教科等	音楽科	対象学年（人数）	6年（31名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和2年9月～令和3年1月（12時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：音楽科（歌唱・音楽づくり・鑑賞）、総合		
2. 単元(活動)名：音楽でつながる、音楽でつなげる ～ここからつたえる、みつねミュージック～		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「震災×コロナ 音楽が喪われたあの日から」 単元目標：「音楽が喪われた日」から、「音楽によって希望を取り戻した時」まで、希望を取り戻そうとした人々の行動や、生じた人々の思いを通し、自分の音楽表現へとつなげる。 （物質的、精神的な レンズから）		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	①「ほらね、」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 ②各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌っている。 ③東日本大震災と楽曲における精神的なつながりについて気付いている。 ④順次進行や音階の特徴を意識して、曲をつくっている。
	②思考力、判断力、表現力等	①音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えることができている。 ②歌詞や曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。 ③自分でつくった「コロナ川柳」の言葉に合うように、リズムや旋律を工夫することができている。
	③学びに向かう力、人間性等	①「ほらね、」が生まれた背景に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 ②震災の「女川中学生の詩」を参考にしながら、「コロナ川柳」の歌詞を考える活動に主体的に取り組もうとしている。
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 新型コロナウイルスが日本に猛威を振るいはじめてから、歌唱や器楽の授業ができなくなったり、マスクを用いた音楽の授業が当たり前になったりし、「当たり前でできていた音楽の授業」ができなくなってしまった。マスクをしながら生活をしていることで、少しずつ児童から表情が消えつつあることを危惧している。今回教師海外研修で授業者が震災教育について学び、色々な方の講話を傾聴する中で、震災とコロナにおける音楽科の共通点について、「歌が消えてしまった」ことが挙げられると考えた。前向きな気	

持ちで音楽に取り組むために、「歌が消えた」事実だけでなく、音楽によって元気を取り戻されていくことも伝え、今回の授業を通して「音楽のもつ力」を再確認し、前向きに希望をもって自分の意志で表現をしていく力をもつ児童を育てていきたい。

【単元の意義】

本単元で扱う「ほらね、」という楽曲は、東日本大震災をきっかけにして生まれた「歌おうNIPPONプロジェクト」の企画でつくられた楽曲である。被災から歌を歌えなくなったり、辛い思いを未だもっていたりする人々に元気を出してほしいという思いでつくられている。震災について思いをめぐらせる中で、パラグアイの日系人たちによる「豆腐百万丁運動」等、世界各国からの協力があってこそ、今の日本があるということを知り、自分たちと震災、自分たちと世界各国が結びつくこともねらいの一つである。

また、これらの出来事を自分ごと化するために、震災とコロナという「音楽が喪われた」機会を結び付け、女川中学生の詩を参考にしながら、コロナ川柳をつくり、ぴったりの曲をつけることで、自分なりに体験を音にして伝える活動につなげていきたい。


【児童／生徒観】

島嶼部での生活しか経験したことのない児童が約80%おり、移動教室がはじめての離島経験だった児童もいるような状況である。そのため、あまり外界に興味がある児童が少なく、外国語の授業において「東京都の紹介をしよう」という単元の時には、「八丈島のことしかわからない」という児童が少なからずいた。そのため、外のことを知ること、いろいろな情報を得ること、様々な体験をした人々の話を聞くこと等、多くの情報に触れることを大切にしたい。


【指導観】

音楽という教科を媒体にして、持続可能な社会を目指して生涯学び続ける地球市民としての資質や能力を国際交流を通して児童に身に付けさせたい。

6. 単元計画（全12時間） 音楽科 11時間 総合的な学習の時間 1時間

時	学習のねらい	学習活動	資料など
1 歌唱	音楽がもつ力について考え、自分なりの意見をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○「音楽」にはどんな力があるのか考える。 ・1学期に鑑賞した「歌劇」「ミュージカル」「ダンスパフォーマンス」を思い出す。 ・「音楽のもつ力」について、考えたことを記入する。 ○「ほらね、」について興味・関心をもつ。 ・「ほらね、」の歌詞を味わう。 ・「ほらね、」の範唱を聴く。 ・「ほらね、」の初発の感想をワークシートに記入する。 ・何人かが、発表・共有する。 ・主旋律に親しむ。 	<p>「ほらね、」 (歌おう NIPPONプロジェクト)</p> 

2-3 歌唱	旋律や音の重なりに 着目して歌い、曲の構 成を捉える。	○「ほらね、」の副旋律に親しみ、曲の構成を知 る。 ・主旋律を通して歌う。 ・各パートの音程を確認しながら、主旋律を意識 して歌う。 ・楽譜に記載されている強弱記号を確認する。 ・楽曲の流れ、構成について確認する。	「ほらね、」 (歌おう NIPPON プロジェクト)
4 歌唱	旋律や音の重なりに 着目して歌い、曲の構 成を捉える。	○「ほらね、」を3声合わせて歌う。 ・3声のパートに分かれて歌う練習を行う。 ・音程を確認しながら合わせて歌う。	「ほらね、」 (歌おう NIPPON プロジェクト)
5 鑑賞	「ほらね、」が生まれ た背景に興味をもつ。	○音楽において、震災と現在のコロナ禍における 共通点について気付く。 ・最近の音楽と震災が関わる話題（震災ピアノ） について教師の話聞く。 ・東日本大震災（宮城県女川町）について知る。 ・女川中学校の生徒がつくった詩について知る。 ・パラグアイと日本の震災時における交流の話 や、昨年度教海研参加者の体験談を伝える。 ・感じたことをワークシートに記入する。	女川一中生の句 あ の日から（小野智美 編・はとり文庫）
6 本時 鑑賞	音楽が喪われてしま った時に、どのよう にして音楽を取り戻し ていったのかを知り、 人々を支える音楽の 力に気付く。	・東日本大震災（福島県南相馬市）について知る。 ・群青～仮設校舎からの卒業式（動画）を鑑賞す る。 ・東日本大震災がきっかけで生まれた曲（群青） を鑑賞する。 ・感じたことをワークシートに記入する。 ○「ほらね、」がつくられた背景について理解 する。 ・「歌おう！NIPPON」プロジェクトについて知 り、震災中に音楽を通して日本を元気づけよう という動きがあったことを知る。 ・リモート版の「ほらね、」を鑑賞する。 ・「ほらね、」をどのように歌いたいのか、思いを 記入する。 ・現時点でも思いを込めて「ほらね、」を歌唱す る。	群青～仮設校舎から の卒業式（動画） 動画「ほらね、」 https://www.youtub e.com/watch?v=vt5 z0ucD6VM

7 総合	東日本大震災にて、日本に援助をしてくれたパラグアイについて、実際に現地で生活していた人から話を聞き、異文化について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 菅原富美さん（JICA 海外協力隊 OV）のパラグアイについての講話を聞く。 疑問に思ったことを質問する。 現地の楽器「アルパ」の生演奏を聴く。 	
8-9 音楽づくり	順次進行を意識した旋律づくりを通して、条件にのっとった音楽をつくる喜びを味わう。	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ川柳をつくり、文字に合わせて旋律を合わせる。 ・コロナ中心の生活について川柳をつくる。 ・順次進行を意識し、リズムと音程を言葉に合わせる。 ・つくった旋律を演奏してみる。 	女川一中生の句 あの日から（小野智美編・はとり文庫）
10 音楽づくり鑑賞	音楽がもつ力について気付き、自分なりの考えをもって表現に生かしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ○自作川柳の音楽発表会をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・各自練習をする。 ・試行錯誤をしながら、旋律を作り変えたり、工夫したりする。 ・グループごとに発表会をする。 ○エストニアの事例を鑑賞し、音楽が演奏できないもどかしさをもった人々の例を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・エストニアの音楽祭の映像を見る。 ・ワークシートに記入する。 ○「音楽のもつ力」について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・「音楽のもつ力」について、考えたことを記入する。 	女川一中生の句 あの日から（小野智美編・はとり文庫） エストニア音楽祭の映像（個人所有）
11 歌唱	歌詞や曲想から、表現を工夫し、どのように表現するか思いや意図をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○前回までの授業を通して、「ほらね、」をどのように演奏したらよいか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・「ほらね、」を通して歌唱する。 ・グループごとに歌詞や曲想から、「ほらね、」をどのように歌うか考える。（重要ポイント探し） ・グループごとの工夫を発表し、全体で歌って試してみる。 	「ほらね、」（歌おう NIPPON プロジェクト）
12 歌唱	歌詞や曲想から、表現を工夫し、どのように表現するか思いや意図をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○「ほらね、」の表現を学級全員で考え、演奏の工夫を全体でまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの工夫したいポイントを拡大譜に貼り付けていく。 ・練習番号ごとに歌い、録音したものを全体で鑑賞する。 	「ほらね、」（歌おう NIPPON プロジェクト）

	<ul style="list-style-type: none"> ・気付いたことを発表し、演奏を調整していく。 ・最後に学級で決めた表現を確認し、まとめの演奏をする。 	
--	---	--

<p>7. 本時の展開（6時間目）</p> <p>本時のねらい：音楽が喪われてしまった時に、どのようにして音楽を取り戻していったのかを知り、人々を支える音楽の力に気付く。</p>			
過程・時間	発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
<p>導入 (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発声練習を行う。 		
<p>「ほらね、」の背景になった、東日本大震災について理解を深め、 「ほらね、」の音楽表現につなげよう</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災（福島県南相馬市）について知る。 	<p>実際に写真をみせながら、地震と原発の問題、小高中学校について説明する。</p>	<p>福島県南相馬市の写真</p>
<p>展開 (30分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・群青～仮設校舎からの卒業式（動画）を鑑賞する。 ・東日本大震災がきっかけで生まれた曲（群青）を鑑賞する。 ・感じたことをワークシートに記入する。 <p>○「ほらね、」がつくられた背景について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「歌おう！NIPPON」プロジェクトについて知り、震災中に音楽を通して日本を元気づけようという動きがあったことを知る。 ・歌が歌えなくなった、コロナ禍でオンラインで大勢が演奏した「ほらね、」を鑑賞する。 ・「ほらね、」をどのように歌いたいのか、思いを記入する。 	<p>動画をただ見るだけにならないよう、適宜解説を入れる。</p> <p>演奏者の心情、作詞者の心情に意識して鑑賞させる。</p> <p>同時に「花は咲くプロジェクト」等、多くの取組について伝える。</p> <p>コロナ禍と震災時、どちらも音楽によって日本中、そして世界とつながっていることを確認する。</p>	<p>群青～仮設校舎からの卒業式（動画）</p> <p>合唱曲「群青」</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点でも思いを込めて「ほらね、」を歌唱する。 	<p>歌っている途中で、声掛けや支援は極力行わない。</p>	

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

以下の観点に基づき評価する

①知識及び技能：③東日本大震災と楽曲における精神的なつながりについて気付いている。

→ワークシートへの記述や発言によって評価する。前時及び本時の内容をもとに、東日本大震災と楽曲を結び付け、なおかつ自分の意見を記入できていればA、いずれかできてB、いずれもできないC

【SDGs 関連項目 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナリーシップで目標を達成しよう】

②思考力、判断力、表現力：本時では評価しない。本時の内容をもとに次時で取り扱う。

③学びに向かう力、人間性：①「ほらね、」が生まれた背景に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

→ワークシートへの記述や発言によって評価する。本時の内容に基づいて、客観的な事実と自分の思いを記入できていればA、自分の思いだけならばB、「感動した」など内容が具体的ではないものはC

9. 学習方法及び外部との連携

【学習方法】

- ・歌唱指導（歌詞の読み込み、旋律に親しむ、ハーモニーを楽しむ）
- ・鑑賞指導（気付いたことの記述、感じたことの記述）
- ・音楽づくり（想起したことを言語化し、そこに音程とリズムを重ねる）

【外部との連携】

- ・JICA 海外協力隊 OV（パラグアイ）を外部講師として呼びよしの講演会の開催。震災×コロナだけではなく、国際理解の視点を取り入れる。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

- ・上記 OV の講演会に、保護者をお呼びする。
- ・掲示物の工夫（国際理解コーナー）
- ・OJT の実施（教師海外研修で学んだこと、実践の報告）

【自己評価】

11. 苦労した点	<p>音楽と他の要素を結び付ける際、授業中に音楽に触れる時間が減ってしまう。そのため、他教科との関連等を考えたが、どうしても無理やり他教科を巻き込む形になりそうだったので、工夫して音楽の中で国際理解や震災教育の要素を盛り込んだ。また、コロナウイルス禍において歌唱の授業や器楽の一部の授業が行えないことにより、最後まで授業を行うことが困難になってしまった。</p>
12. 改善点	<p>音楽科を柱にしなが、家庭科や生活科、総合的な学習の時間とうまく関わらせながら、計画を立てていくと一面的なものの見方だけではなく、児童の考え方が深まる時間になっていくと考える。また、映像資料に関しては、自分が知っているものを中心に選んでしまったが、生の教材を実地に探しに行ったり、もっと見識を広げることで取り組める授業の中身はさらに広がると考える。</p>
13. 成果が出た点	<p>歌唱表現に深みが出た。工夫して歌いたい場所を児童が積極的に挙げ、曲想からも歌詞からも、思いを込めて歌うことにつながった。また、関連があるかは不明確ではあるが、外国語科の授業への取組も真剣さが増し、外国について興味をもつ児童が増えた。</p> <p>また、出前授業でのパラグアイについての講演とアルパの演奏では、豆腐百万丁運動の話聞いていた6年生は、しっかりと傾聴しており、生の民族楽器に興味を抱いていた。</p> <p>結果として、「音楽が喪われた」という状態に戻ってはしましたが、児童が歌いたいという思いを強くもっていることが分かったことは、大きな成果であった。</p>
14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<p>被災地の現状や中学生の俳句を紹介した時には、思わず息を飲む児童や「こんなことがあったなんて思いもしなかった」という意見をワークシートに書く児童がみられた。また、パラグアイの豆腐百万丁運動の話を伝えた際には、「遠く離れた地から日本に支援をしてくれるなんて、誰にでもできることではない」という意見が出て、後日パラグアイに関わる方法はないかという発言もみられた。</p> <p>また、コロナ川柳において「負けない」「力をこめて」等の言葉が出たことで、今の状況に打ち勝とうという強い思いを感じた。旋律づくりでも「これから先に希望が出る感じだから明るい終わり方にしたい」等の書き込みがあった。</p>
15. 授業者による自由記述	<p>コロナ禍において音楽の授業は制限され、なかなかできることが少ない現状にある。その中で子供たちは、歌や合奏などに思いをめぐらせ、何の制限もなく活動ができることの素晴らしさを再認識できたのではないかと思う。今回、東日本大震災とそれを支える諸外国の動きについて新しく知り、そして支えてくださった国について現地で生活した人から知識を得て、どこの国でも音楽によって通じ合えることを学ぶことができた。子供たちからは、「コロナで困っている今こそ、他の国の情報も知りたい」という意見が出て、世界の動向に興味をもつ児童も出てきた。今後様々な活動において、グローバルな視点をもって取り組んでいきたいと考えている。</p>